

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	270800386		
法人名	有限会社とんぷう		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地 (電話番号)	〒035-0021 青森県むつ市田名部字土手内74-237 (電話) 0175-22-1765		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 3月 23日	評価確定日	平成 21年 4月 28日

【情報提供票より】(平成21年3月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 9月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	3人, 非常勤 6人, 常勤換算 2.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	62 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むつ総合病院、三上医院、高橋歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>民家に囲まれた場所に位置しており、車の通りも少なく静かな環境にある。中に入るとホールスペースは窓からの光が差し込み明るい空間となっている。入居者は日中は主にホールスペースで思い思いに過ごしている。職員はゆったりと落ち着いた対応で入居者に接している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価にて課題となった「本人と共に過ごし支えあう関係作り」などの項目については、日常生活や面会時等に情報を得て、職員会議やカンファレンスで検討し改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」と「市町村との連携」の部分についてはまだ改善されていない。今後の取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議等の場を活用し、自己評価の実施や外部評価内容の報告をしている。今回の改善項目については改善内容を真摯に受け止め、所長と経営者として改善について現在検討中である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>出席者が少ないことから昨年度は2回のみ開催となっている。運営推進会議については、開催方法や委員との情報共有方法等を検討し出席者の多少にかかわらず、まずは開催してみることに始める取り組みを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>定期的に面会に見える家族に対しては面会の機会を活用し、近況報告や金銭出納等についての報告をしたり意見等を伺ったりしている。それ以外の家族に対しては、電話または必要に応じて管理者が訪問して対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人クラブや町内会の集まりの場、在宅介護支援センターが開催する地域での家族介護者教室へ参加し、グループホームについての説明や事業所の紹介等をし、地域との関係作りに取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、笑顔と奉仕と感謝の気持ちで入居者と接します」「私たちは、入居者に地域の中でその人らしい暮らしを支援します」の二つの理念を掲げ、入居者がその人らしい生活ができるよう、援助に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンスや職員会議等の場を活用し、理念の共有や実践へ向けた取り組みについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の老人クラブや町内会の集まりの場、在宅介護支援センターが実施する地域での家族介護者教室等へ参加し、グループホームについての説明や取り組みを紹介し、地域との関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議等の場を活用し、自己評価の実施や外部評価内容の報告をしている。自己評価・外部評価の結果に対しては、所長と経営者として話し合っているが、具体的な改善プランは示されていない。</p>		<p>改善計画書や改善記録等を作成し、ホーム全体に周知し、取り組むことが望ましい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>出席者が少ないとの理由から、年1～2回の実施となっている。</p>		<p>委員の参加を増やすための工夫や欠席者へは会議の情報を伝えるなどの取り組みを通じて、概ね2ヶ月に1回の開催を期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在のところ、運営やサービスの質の向上にむけて市町村担当者と取り組む体制がまだ取られていない</p>		<p>成年後見制度の勉強会開催について相談するなど、徐々に体制を整えていく予定があることから、今後の取り組みに期待したい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、権利擁護や成年後見制度を利用している入居者はいないとのことから、勉強会等の学ぶ機会がもたれていない。</p>		<p>必要な知識であることを認識し、まずは勉強会開催等の早急な対応が望まれる。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する資料や記録はなく、職場内でもまだ勉強会を開いていない。</p>		<p>必要な知識であることを認識し、まずは勉強会開催等の早急な対応が望まれる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は管理者が入居者宅へ訪問し、契約書や重要事項説明書を使い説明をすることで、理解と納得が得られるよう対応している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的に面会に見えるご家族には、面会時を活用し近況報告や金銭出納等について報告している。面会で報告等の機会が図れないご家族に対しては、電話または必要に応じて管理者が訪問し対応している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見・不満等は随時受け付け、家族からの意見・不満等は主に面会時を活用し聞き取りしている。伺った意見・不満等は職員会議で検討し運営に反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に人事異動はない。離職者がある場合は、離職前に利用者への挨拶や新職員の紹介をして対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員には先輩職員と共に業務を実施する体制をとり教育している。その他の職員に対しては具体的な研修プランがなく、計画的な研修が実施されていない。</p>		<p>出来る範囲からでも、具体的な研修・人材育成計画を作成し取り組んでいくことが望まれる。</p>
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者とのネットワークがあり、情報交換するなど交流する機会を持っている。今後は、そのネットワークを活用し、さらに介護技術向上を図っていく予定である。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には管理者が事前に訪問で面談し、話し合いや情報収集を実施している。入居時や入居後は本人・家族からの情報を基にカンファレンスで話し合い馴染んでいけるよう対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族からの情報や日常の中で本人からの情報を基に、本人の趣味や生活習慣の把握に努め、本人の出来る家事や軽作業等協力してもらい役割を持って生活してもらうよう対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の中で本人からの情報収集すると共に、面会時等を活用し家族からの情報収集を実施し、暮らしの希望や意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の中で本人からの情報収集、面会時等を活用し家族からの情報収集を実施し、毎月のカンファレンスでスタッフ全員でケアプランを作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、最長半年で見直ししている。また、状態変化時は随時、その月のカンファレンスで見直しを実施している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の要望に応じて、病院や行きつけの美容院への送迎に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>通院の支援は主に管理者と看護師が対応し、入居前に通院していた医療機関を継続している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在、重度化や終末期の方針については明確なもの定まっていない。出来る限り対応していきたいと職員会議で検討している。</p>		<p>出来る範囲からでも、具体的な方針を早急に決めていくことが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人の誇りやプライバシーに配慮した声掛けや介助をしている。個人情報に関する書類等は事務所内の鍵のかかるスペースで管理している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースに合わせ支援している。必要に応じて家族に協力を依頼し外出に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や配膳等の出来る入居者には協力してもらい、職員と一緒に準備・後片付けをしている。食事は楽しい雰囲気を入居者と職員が同じテーブルで摂っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日、午後の2時間程度を設定し、希望に応じて入浴できる。入浴剤を変え入浴に変化をもたせるよう工夫している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者・家族からの情報を基に、これまでの趣味や特技を生かせるよう取り組んでいる。今年は隣接する場所に畑を作っていく予定がある。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホーム周辺の散歩は随時対応している。その他の外出は出来る範囲で支援しており、家族にも協力してもらい実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については随時口頭で職員に指導している。</p>		<p>勉強会の開催やマニュアルの作成などを行い、全ての職員が知識・対応を共有していくことが望ましい。</p>
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関に鍵はかけず、引き戸の鈴で人の出入りを確認している。入居者が外出しようとする場合には、職員が付き添っている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回、消防署から協力してもらい防災訓練を実施している。日頃より、町内会長に協力してもらえるよう依頼している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、全員の摂取量の記録を付け、摂取量の把握に努めている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症についてのマニュアルが設置されており、それを基に職員が対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や台所・食堂は窓からの自然の光で明るい環境である。明るさはカーテンで調節し配慮している。また、職員の動きもゆったりとしており落ち着いた空間となっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時や面会時に使い慣れた物を持ってきてくれるよう家族に協力を働きかけ、小物が持ち込まれている。スペースの使い方については、本人と話し合って模様替えをするなど、対応している。</p>		

 は、重点項目。